

# ベイジアンネットワーク 正誤訂正

平成 25 年 9 月 26 日

p.15 下から 2 行目

(誤)  $I(\theta^*)$  をフィッシャー (Fischer) の

→ (正)  $I(\theta^*) = E_{\theta}[(\frac{\partial}{\partial \theta} \ln L(\theta | \mathbf{x}))^2]$  をフィッシャー (Fischer) の

p.18 下から 1 行目

(誤) データ移動型母数という.

→ (正) データ移動型母数と呼んだ.

p.33 図 2.7(a)

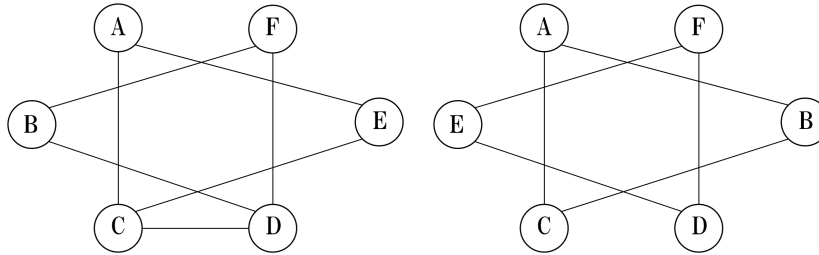


図 1: (誤)

図 2: (正)

p.42 図 2.22(b)

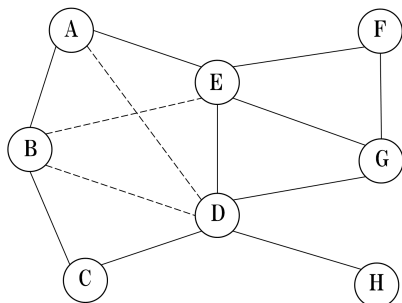


図 3: (誤)

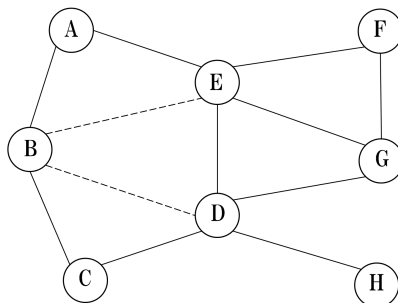


図 4: (正)

p. 44 上から 2 行目

(誤) 3.  $\alpha(1) \leftarrow V_i$

→ (正) 3.  $\alpha(1) \leftarrow V_i, \text{Numbered} \leftarrow V_i$

p.44 上から 4 行目

(誤) 4. 近傍のノード数

→ (正) 4. 近傍ノードとラベル付けされたノードとの共通ノード数

p.44 上から 5 行目

(誤)  $D$  を  $i$  とし,

→ (正)  $D(\max | \text{Nbr}(V_k) \cap \text{Numbered} |)$  を  $i$  とし,

p.44 下から 6 行目

(誤)  $E'$  には何も加えないで 5. へ行き

→ (正)  $E'$  には何も加えないで 6. へ行き

p.45 上から1行目

(誤) そこで  $E$  が  $\alpha(6)$  と

→ (正) そこで  $G$  が  $\alpha(6)$  と

p.50 下から2行目

(誤) 3. アルゴリズム 2 により,

→ (正) 3. アルゴリズム 2,3 により,

p.51 図 2.30 (a) のキャプション

(誤) (a) 図 2.28 に対する完全ナンバリング

→ (正) (a) 図 2.29 に対する完全ナンバリング

p.52 3行目

(誤) 2. アルゴリズム 2 に適用して

→ (正) 2. アルゴリズム 2,3 に適用して

p.57 下から5行目

(誤) 開いているためには

→ (正) 開いていないためには

p.109 図 5.2 の右図

(誤) 図中の  $\Pi$

→ (正)  $\pi$

p.121 図 5.5(b)

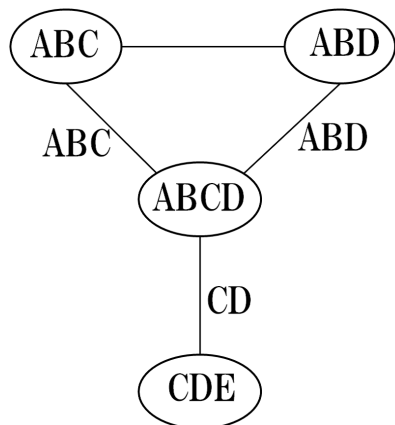


図 5: (誤)

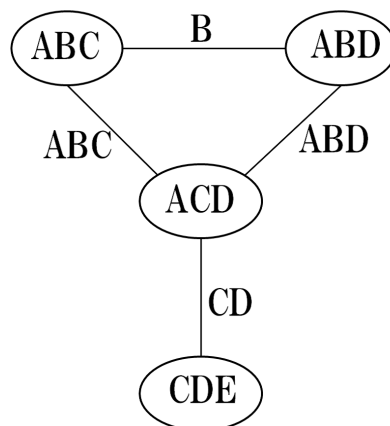


図 6: (正)

p.132 5 行目

(誤) 現在のこの分野では,  
→ (正) 削除

p.139 2 行目

(誤) 事前分布に一樣分布を仮定し  $\alpha_{ijk} = 1$   
→ (正) 事前分布に一樣分布を仮定した  $\alpha_{ijk} = 1$

p.164 下から 6 行目

(誤)  $Y$  の最適親ノード集合はより少ない  
→ (正)  $y$  の最適親ノード集合はより少ない

p.186 例 4 9 の 1 行目

(誤) 図 (a) が真の構造とし, 図 (b) で  
→ (正) 図 (a) が真の構造とし,  $G$  をターゲットノードとすると, 図 (b) で

p.187 図 7.3 のすべての図

(誤)  $I$   
→ (正)  $G$

p.187 下から 1 行目

(誤) しかし残念なことにこのアルゴリズム 32 は  
→ (正) しかし残念なことにこのアルゴリズム 33 は

p.198 5 行目

(誤) ハイパーパラメータ  $\alpha_{ijk}$  は事後分散に半比例し,  
→ (正) ハイパーパラメータ  $\alpha_{ijk}$  は事後分散に反比例し,

p.200 10 行目

(誤) we obtain  
→ (正) より